

投資額は「年100万円未満」が半数

中小企業のDXへの投資

費用対効果は「適正以上」が半数

サクサホールディングス(株)

サクサホールディングス(株) (東証スタンダード上場、東京都港区) が実施した中小企業の経営層への調査によると、DXへの投資は「100万円未満」が半数に達した。一方で「DX導入の費用対効果」については「適正以上」との回答が約半数にのぼった。

サクサホールディングス(株)は中堅・中小企業のオフィスのDX支援や情報通信システムの開発、製造、販売などを手掛けている。調査は当社が中小企業の経営者や役員を対象に7月21日～24日に実施し、218件の回答を得た。回答した企業の業種は情報通信、建設業、製造、卸売・小売、不動産、サービス、金融・保険、宿泊など。

アンケートで「DX施策について年間どれくらいの費用がかかったか」と質問したところ、「100万円未満」との回答が50.8%を占めた。「100万円以上300万円未満」と答えた人も27.1%に達し、「300万円未満」との回答が合計で約8割を占めた。「300万円以上500万円未満」「500万円以上1,000万円未満」はそれぞれ6.8%にすぎなかった。「1,000万円以上」も8.5%にとどまった。

一方で「DX導入の費用対効果についてどう思うか」と聞いたところ、最も多かったのは「適正」で50.8%に達した。「高い」は15.3%、「やや高い」は22%だった。「適正」以上の評価は合計で9割近くに達した。「やや低い」は5.1%、「低い」は6.8%にすぎなかった。この結果からは、中小経営者が「少ないDX投資の割に一定の効果をあげている」と考えていることが分かる。

「今後、実施する予定のDX施策はあるか」との質問に対しては「電子契約・決済」が27.1%でトップだった(上位3つまでの複数回答)。「情報セキュリティ対策」「書類の電子化」「その他業務管理」もそれぞれ20.3%に達した。「経費精算」(18.6%)や「顧客管理(名刺管理含む)」(16.9%)との回答も2割近くに達した。「情報セキュリティ対策」以外では、社内の事務処理の電子化関連の回答が多かった。

＝＝